

## 〈日本 SPF 豚研究会誌〉

### 「All about SWINE」投稿のお願い

SPF 豚の普及に役立つ調査・研究論文および防疫、飼養、流通、消費等に関する解説・資料等の原稿を募集しております。下記要領にご留意の上、ご投稿下さい。

1. 原稿は原則としてワープロを使用してA4用紙に横書きで作成して下さい。手書きの場合は、400字詰原稿用紙を使用して下さい。
2. 原稿の1枚目には表題（英文表題も併記）、投稿者名（ローマ字表記も併記）、所属機関名（郵便番号および住所）を記して下さい。2枚目以降の記述形式は特に定めませんが、資料等を引用した場合は末尾に「参考資料」または「引用文献」の項目を設けて下さい。
3. 表は原則として縦罫線を使用せず簡潔なものとし、また図はそのまま印刷が可能なように白色紙または方眼紙に黒色で記入して下さい。写真は原寸印刷が可能なように原則として横7cm程度、縦7cm以下として下さい。
4. 原稿の送付先は「〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学大学院連合獣医学研究科 応用獣医学連合講座 浅井鉄夫」までお願いします。

### 〔編集後記〕

岐阜県で豚とイノシシから豚熱ウイルスが確認されて6年が過ぎようとしている。2018年に瞬く間に岐阜県内に広がったイノシシでの感染は、ここ2年程愛知県との県境（岐阜県の南部）と岐阜市周辺で限定して小規模な感染を繰り返していた。しかし、再度感染地域を拡大しようとしているが、以前に比べると感染拡大スピードが明らかに緩慢である。これは免疫が関与しているのだら

う。新型コロナで私たちが経験したことが、野生動物でも同様である。ワンヘルスが話題になり、野生動物の感染症が注目されるようになっているが、野生動物がどんな病原体を持っているのか、野生動物の間で流行しているのかよくわかっていない。よくわからないから、侵入防止を徹底する対策を講じなければならない。

これまでにいろいろな病原体に関する研究が行われ、人類はその成果を利用して感染症と闘ってきた。飼育豚やイノシシへのワクチンが存在する豚熱でさえ、6年たっても感染が維持されている。ある先生に言われた「人類は野生動物の感染症を制御した経験がない」という言葉が身に染みる。

「ALL about SWINE」  
第65号

ISSN 0918-371X  
年2回発行

2024年9月発行 定価1,500円  
発行者 小林 秀 樹  
編集者 浅 井 鉄 夫  
発行所 日本 SPF 豚 研 究 会  
事務局 〒305-0856  
茨城県つくば市観音台3-1-5  
国立研究開発法人 農研機構  
動物衛生研究部門 内  
info@jp-spf-swine.boo.jp